

化学教育 徒然草

「好き」から 「大好き」になるために

NANJO Masato

南条真佐人

鳥取大学大学院工学研究科 教授
副支部長, 化学教育協議会委員長



巻頭言

「七五三」と言えば日本の年中行事の一つですが、随分前に「これは理科が好きな小学生、中学生、高校生の割合ですよ」と聞かされて少し悲しい気分になったのを覚えています。私は教育学が専門ではありませんので、この数字が本当なのか、今はどうなっているのかについてはよくわかりません。しかし読者の皆様は、少しでも「好き」と答えてくれる生徒が増えることを切に願っているのではないのでしょうか。

さて、私が所属している中国四国支部化学教育協議会では、その活動の一つとして「化学教育研究発表会」と題し、中高生から高専生による研究成果を発表する機会を提供してきています。2023年度は広島大学で開催され、計20件の発表（口頭・ポスター）があり、100名近くの方に参加していただきました。生徒たちがコツコツと積み上げてきた研究成果を、目を輝かせながら発表している姿に、私も応援したくなる感じがしたのを覚えています。学会における醍醐味は、同じ会場に同年代だけでなく、大学生やほかの一般の研究者も同じように発表していて、その議論を目の当たりにできることだと思います。これは実際に学会に参加しなければ経験できないことであり、今後の人生に大きな影響を与えるであろうことは想像に難くありません。

しかし教員の方からは、費用の面ではなかなか難しいものがあるところのご指摘もいただきました。もとより本発表会は参加費無料で開催していますが、開催年によっては移動が長距離になる場合もあります。何とかこの問題をクリアできないかと思案し、交通費の補助事業を立ち上げられないか当時の支部長である広島大学の山下浄治先生にご相談したところ、中高生会員になっていただくことを前提にぜひやってみましょうとの力強いご返事をいただきました。さらに幸いなことに、ちょうど日本化学会全体で中高生会員の増強が話題になっていたこともあり、支部新規事業として「中高生育成交流事業」を日本化学会から認められ、今年度から実施することができました。少しでも多くの生徒諸君に学会を経験していただき、「化学が好き」から「化学大好き」な人が一人でも多くなってくれることを期待して止みません。

[連絡先]

680-8552 鳥取県鳥取市湖山町南4-101 (勤務先)